



し か ま 議 会 だ よ り

第95号
令和8年3月2日発行

新議長を選出し再出発

11月会議・12月会議・8年1月会議・1月第2回会議

11月会議～8年1月第2回会議	2 P
議会懇談会	4 P
地域おこし協力隊の近況	5 P
委員会活動レポート	6 P
「風の人・土の人」・編集後記	8 P

令和7年
11月会議
11月18日開催

工事請負契約締結を可決

1. 目的：下高城集会所建築工事
2. 金額：58,410,000円
3. 相手方：色麻町(有)黒沢工務店
4. 契約方法：条件付き一般競争入札



建設中の下高城集会所

令和7年
12月会議
12月2日開催

天野秀実議長 不信任可決

天野秀実議長不信任決議（案）について審議した結果、全会一致で可決しました。2回目の不信任決議にも拘わらず、辞任せずに議事を進行しようとしたために、全議員が退出し延会となりました。それにより12月会議日程にあった議員4名（今野公勇・高森すみえ・工藤昭憲・小川一男）の一般質問は行われず、町提出議案も審議未了になりました。

専決処分について（報告）

令和7年12月5日付けで、定例会12月会議で審議未了の12カ件中5件は、専決処分したとの報告を受けました。

令和8年
1月会議
1月6日開催

◎会期の決定

色麻町議会定例会の通年開催に関する要綱により、令和8年の会期を1月6日から12月28日までの357日間としました。

天野秀実議長 辞職勧告可決

開催された1月会議で、「天野秀実議長に対する議長辞職勧告」の動議が提出され、採決した結果、全会一致で可決しました。

その後、天野議長が議事を進行したため議員全員が退出し、議案審議は行われず延会となりました。

新議長に中山 哲 議員

指名推薦 全会一致で選任

1月第2回会議が1月23日から26日まで開催された。冒頭で天野秀実議長の議長辞職が承認され、直ちに議長の選挙が行われた。議長は原則選挙で選任されるが、今回は議会の結束を示すべきとの判断から、動議により指名推薦とした。会議事件は、専決処分承認が26件、同報告が1件、7年度一般会計補正予算を可決。議員発議の意見書を採択した。

就任の挨拶



中山 哲 議長

本町議会をめぐるとの騒動で、町民の皆様から極めて厳しい批判と、ぬぐい切れない不審を向けられております。

本来、町政のチェック機関として範を示すべき議会が、自らの不祥事によって混乱を招き、町政を停滞させ、ご心配とご迷惑をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。

私は議長として、今こそ町民の負託に応えられ

る、当たり前前の議会を取り戻してまいります。まずハラスメントのない健全な組織体質の確立です。

職員が安心して能力を発揮でき、議員同志が人格を尊重し合う、最低限のルールを徹底し、風通しの良い議会運営を再構築いたします。

次に、公正・中立で透明性の高い議事進行です。議会における議論は、特定の感情や対立に左右

されるのではなく、あくまで町民の福祉向上のために尽くされるべきです。ルールに基づいた厳正な運営に努めます。

次に、町民の声に真摯に向き合うことです。議会は町民の負託によって成り立つものです。今回失われた信頼を取り戻すには、言葉ではなく、これからの行動で示すほかありません。

全議員が一丸となって、町の未来のために働く。その当たり前前の姿を積み重ねて行くことで、再び町民の皆様から認められる議会を目指します。

混乱の後の再出発であり、その道のりは決して平坦ではありませんが、議会の正常化に全力を尽くしてまいります。

意見書

全国一律最低賃金の創設と中小企業支援の拡充を求める政府に対する意見書

いま、長引く物価上昇のもとで国民・県民の暮らしと経済に深刻な影響を与えています。

政府が経済対策として位置付けた最低賃金の引き上げですが、物価上昇が続くなかでは暮らしを支えるものになっていません。

また、現在の最低賃金制度は、A～Cランクで格付けされ、労働者はより高い都市部へ転出する要因となっております。

最低賃金の引き上げは、生活保護基準、年金、農家の自家労賃、下請け単価、家内工賃、税金の課税最低限度等にも波及し、地域経済と日本経済の発展につながるものと考えます。

以上の趣旨により左記の早期実現を求めます。

記

- 1、政府は、国民生活の向上のため、生活できる最低賃金にするため大幅引き上げを行うこと。
- 2、政府は、全国一律最低賃金制度の創設、地域間格差を縮小させるための施策を進めること。
- 3、政府は、中小企業への支援策を拡充すること。中小企業負担を軽減するための直接支援として、中小企業とそこで働く労働者の社会保険料負担の引き下げを実現すること。

提出先

内閣総理大臣 厚生労働大臣

令和7年度

議会懇談会を開催しました



令和7年度議会懇談会のテーマは、「色麻に住む私たちの未来に向けた取り組み」として、参加団体の皆様と議員により意見交換を行いました。



農業の未来は…

開催日時

令和7年11月27日(木) 午後7時～

開催場所

色麻町農村環境改善センター
2F 大会議室

参加団体

J A 加美よつば青年部
しかまにぎわいづくりの会



商工業の未来は…

全体を2つのグループに分け、テーマに沿って、色麻町の農業、商工、観光、子育てなど幅広い分野でワークショップを行いました。終了後、それぞれのグループの代表者が前に出て、話し合われた内容を発表しました。

懇談会で出された主な意見

- 町のイベントその他の周知や宣伝に積極的にSNSを活用すべき。
- 母子家庭への支援等、子育てするなら色麻町と言ってもらえる体制づくりを。

- 愛宕山公園やキャンプ場等、憩いの場の整備。
- 道の駅を作り、各種イベント等の開催によって交流人口の増加につなげる。
- ① 交通体制の整備
- ② 商店の活性化
- ③ バリアフリー化
- ④ 空き家の活用

などにより、住み続けられる町づくり。

- 経営や技術面で企業としての農業を展開してゆく。
- 加美農高と連携することにより、農業のさらなる活性化を図る。
- これからの時代、オーガニックや有機農業の需要は高まる。
- 地熱発電を利用した冬場の生産性向上。
- 利便性のある道路の整備。

以上のような意見が出され、実りある懇談会となりました。

これらの貴重なご意見を、今後の議会活動に反映して参ります。

ご参加いただきました団体の皆様、ありがとうございました。

地域おこし協力隊の近況



地域おこし協力隊制度とは、都市地域から過疎地域等の条件不利地域等に住民票を異動し、生活の拠点を移した者を地方自治体が「地域おこし協力隊員」として委嘱し、隊員は一定期間（概ね1年以上3年以下の期間）その地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る制度です。

令和7年3月時点で全国1,700市町村のうち1,176の市町村が制度を活用しており、7,910人の協力隊が活躍しています。

本町では、令和4年度から地域おこし協力隊制度を活用し地域課題の解決に取り組んでいます。

今回は地域おこし協力隊として令和4年度に採用され卒業された3名の近況をお知らせします。

尚、本町では現在3名の地域おこし協力隊員が活躍しています。



《地域おこし協力隊OB》
おおた ゆきひろ
太田 幸啓さん
(38歳・宿地区)

令和4年4月より、色麻町の地域おこし協力隊1期生として3年間活動しました。現在も引き続き南山果樹生産組合でお世話になりながら、約70アールの農地でりんごを栽培しています。

大学卒業後は自衛隊へ入隊し、その後は介護施設で働いていました。元々農業の中でも果樹栽培に興味があり、転職を考えていたタイミングでそれを学びながら働くことのできる仕事として、協力隊の募集を見つけたことが移住のきっかけです。

昨年収穫したりんごの出荷作業もすべて終了し、春を迎えるまでの今の期間は、木の枝の剪定作業に取り組んでいます。雪が積もった中で行う地道な作業ですが、樹形を整え果実の品質を向上させるための重要な仕事です。

栽培したりんごを直売所や飲食店に出荷し、「南山のりんご美味しかったよ」と町の方々から味の感想を伝えてもらえることが、仕事をやる上でのモチベーションに繋がっています。

周りの農家の方々に教わりながら勉強の毎日ですが、将来は自分の農園を持ち、果樹だけで生計を立てることを目指しています。そのために他の農作物の栽培も行い、農業で得た収入で生活を安定させることが直近の目標です。

元色麻町地域おこし協力隊、鳥獣被害対策支援員の長谷川です。自分は他の協力隊員より1年短い2年間色麻町役場でお世話になっていました。

現在は、大崎市古川にある(株)笹原組という会社に勤めています。林野庁の工事を主体に行っている会社で国有林内での林道の新設や修繕、河川に治山堰堤を整備しています。自分は栗原市花山の河原小屋沢というところで2年間治山堰堤を作っていました。治山堰堤とは砂防堰堤と違い川の急な流れのところを小規模な複数の堰堤で流れを緩くし、土石流などの勢いを軽減し被害を抑えるものとなっています。

この仕事は、夏はやはり暑くて大変ですが完成した時の達成感は非常にあり、とてもやりがいのある仕事だと思っています。

また、地域おこし協力隊の任期終了後も猟友会と鳥獣被害対策実施隊は継続して参加しています。今年度もイノシシとクマの有害駆除に従事しました。平日は仕事で通勤時間も1時間以上あるため、朝の見回りなど大変なこともあります。今後色麻町の鳥獣被害対策と被害の軽減のため尽力していきたいと考えています。

今後も何かとお世話になると思いますのでその時はよろしくをお願いします。



《地域おこし協力隊OB》
はせがわ たくみ
長谷川 巧さん
(25歳・上黒沢地区)

お久しぶりでございます、去年色麻町地域おこし協力隊を卒業しました高橋美智子です。僭越ながら、議会でよりに文章を書くことをお許しください<(_)>

色麻町地域おこし協力隊を卒業後は、最高の田舎ライフが送れる色麻町で愛する動物たちと幸せな日々を暮らしています。神様、ありがとうございます。話変わりまして、私は色麻町の猟友会に属しています。今現在色麻町の猟友会には20人位の方が所属しています。人口6,000人に対して20人位しかいません。そのメンバーで色麻町鳥獣被害対策実施隊が結成され、田畑に被害を及ぼすイノシシの駆除をしています。自分の田畑を守りたい！鴨鍋食べたい！鹿の角がほしい！非日常的な空間を味わってみたい！など、理由は何でも構いません。もし少しでもご興味があれば躊躇せずに、お気軽に色麻町役場農林課に足を運んでみてください。農林課にも鉄砲上手な狩猟者があります！色麻町では狩猟免許取得に関して助成金がありますので、金銭的な負担も軽減しつつ取得できます。色麻町の猟友会は優しい方ばかりなので安心してください。色麻町の猟友会に是非ご入会を！どうぞよろしくお願ひいたします<(_)>



《地域おこし協力隊OG》
たか はし みちこ
高橋 美智子さん
(52歳・花川・沢口地区)



総務教育常任委員会

委員長
河野 諭

- 1、調査期日
令和7年10月31日
- 2、調査事項
 - ①町民生活課
 - ・ プラゴミ変更後の現状について
 - ・ 環境美化活動について
 - ・ 悪臭対策について
 - ②教育総務課
 - ・ 奨学資金貸付制度について
 - ・ 学力向上推進会議（学力向上対策）について
 - ・ いじめ、不登校対策について
 - ・ 心のケアハウスの状況について
 - ③生涯学習課・公民館
 - ・ 体育施設の熱中症対策について
 - ・ 部活動の地域移行について
- 3、調査方法
担当課より各調査事項について説明を受け、その後質疑応答形式で調査を実施しました。
- 4、まとめ
今回の調査では、各委員から指摘・提言・申し入れ事項を述べました。特に奨学資金貸付制度は、加美町や群馬県下仁田町は地元に戻ってきたら返済不要の奨学資金制度を作っている。本町においても、若い

人が地元に戻ってくるような制度設計を作るべきではないか。このことも踏まえて、今後も町民のために、行政サービスをしていただけるよう要望し報告と致します。



質疑応答での所管事務調査

議会運営委員会

委員長
山田 康雄

- 1、視察期日
令和7年12月23～24日
- 2、視察地
静岡県 浜松市議会
- 3、視察項目
 - ・ 議員定数（設定根拠や見直しの経緯）
 - ・ 定数の考え方（人口規模や地域特性）
 - ・ 定数の影響（審議機能やチェック機能）
 - ・ 定数の妥当性（少数意見の反映、住民参加の観点）
- 4、まとめ
浜松市議会の定数は、平成17年に65人、平成19年は56人、平成23年から現在の46人と削減してきている。今回行政区の再編にあたり、外部有識者による定数のあり方調査会を設置し、市民意向調査や議員アンケート・市民向けシンポジウム等を開催してきた。
政令市の浜松市は、財政規模はもとより人口も面積まで大きな違いがあります。議会改革の取組手法は大変参考となり、今後色麻町議会改革の大きな財産になったと言えます。

視察研修を受け入れてくださった浜松市議会の皆様、大変ありがとうございました。ございました。



浜松市議会での視察研修

委員会活動

産業民生常任委員会

委員長
小松栄喜

1、調査期日

令和7年11月4～5日

2、調査内容

①愛知県飛鳥村

観光の取り組みについて

②(株)名古屋食糧

色麻産米の流通状況について

③愛知県国際展示場

企業におけるコンベンション方式について

3、視察内容

「飛鳥村の取り組み」

財政力指数2・21と20年連続の全国一の村が2018年に観光交流協会を設立。観光を切り口に四季を通して交流人口の推進をどのように図っているのかなど説明を受けた。

「(株)名古屋食糧について」

約30年以上、JA加美よつばと取引をしている企業に議会として訪問。貴重な意見交換など出来た。

「愛知県国際展示場の取り組み」

コンベンション事業や官民におけるコンベンション方式について説明を受けた。

4、まとめ

今回の視察において、委員会として

町の活性化に資する、さまざまな提案や提言を考慮検討し、執行部と情報共有を図りつつ住民の福祉向上と生活満足度の向上へ繋げ、更なる町政の発展に寄与するよう報告と致します。



株名古屋食糧での研修

1、調査期日

令和7年8月27日

2、調査内容

JA全農ラドファ株式会社東北工場

(工場視察)

3、視察内容

JA全農ラドファ株式会社の風祭社長、桑原専務より会社案内と工場内の概要説明。その後各委員より質疑応答形式にて調査。委員会として加美よつば産米の需要・供給状況等の調査をした。

4、まとめ

調査をして生産力は年間1,600万食のバック米製造が可能。令和6年度は718万食を製造し、また、従業員数は45名で内、町内就業者は7名。製法についても「ガス直火炊き、シャリ切り、保存料ゼロで長期保存」など商品へのこだわりを感じた。また、輸出については令和6年度で3万食、主な輸出先はイギリス・シンガポール・香港。また、県内産の「ひとめぼれ・金のいぶき」等の銘柄の集約が今後の課題とのこと。

本町において、大原工業団地の第

1号の企業でもある会社を町として引き続きバックアップし、発展と向上につなげて頂きたい。



JA全農ラドファでの研修

風の人 土の人

まちは、他所（よそ）から来た“風の人”と、地元生まれ育った“土の人”で成り立ち、まちの風土が作られていく

私は、11月末に行われた県下弁論大会に出場し、優秀賞をいただきました。弁論大会に出ることが決まったとき、正直とても不安でした。人前で話すことは苦手ではないけど、いざ弁論の練習をしてみると、緊張して声が小さくなったり、言葉を間違えたりすることが何度もあります。

伝えることの大切さ



向町地区 早坂 秀叶さん

はやさか しゅうか
平成22年12月生まれ

先生や家族にアドバイスをもらいながら少しずつ練習を重ねていきました。本番当日はとっても緊張しましたが、今まで練習してきたことを信じて思い切って発表しました。早口になった所もあつたけど、最後までしっかり話すことができました。

発表が終わったときは、ほっとした気持ちと同時に、やりきったという達成感でいっぱいでした。弁論大会を通して、私は「伝えること」の大切さを学びました。ただ読むだけではなく、自分の気持ちや考えを相手に伝えるのが大切だと感じました。また、あきらめずに挑戦することで自信につながること

も分かってきました。私の将来の夢は、幼稚園の先生になることです。幼稚園の先生は、子どもたちの毎日を明るく支える大切な仕事だと思っています。弁論大会で学んだ、相手を考えて話すことや、落ち着いて伝えることは、将来子どもたちと接するときにも役立つと思います。そして、これからの学校生活でも、自分の気持ちを伝える力につながると思っています。

次回の会議は 3月3日(火)です。 **議会の様子はパソコン・スマホで、生中継（録画）されております。**

編集後記

色麻町議会は1月23日の会議で新議長に中山哲議員を選任しました。議会審議空白を取り戻す為に、全議員一丸となり信頼回復に向けて取り組んでまいります。

現広報委員会は2月4日で2年の任期が終了となり、今回の第95号が最後になります。今後も議会だよりをよろしくお願いします。

文責 西村義隆

議会広報常任委員会

- 委員長 西村義隆
- 副委員長 小川一男
- 委員 工藤昭憲
- 委員 高森すみえ
- 委員 今野公勇
- 委員 白井幸吉